

温床マットを利用したシンパクさし木技術マニュアル

平成30年3月

さいたまの花普及促進協議会

はじめに

産業としての日本の盆栽は、大別すると3種類の職種から成り立っている。

1つめは、盆栽を商品として仕上げ、維持管理する職業で、一般的な「盆栽屋さん」のイメージはこの部分に起因するところが多い。

2つめは、盆栽苗を生産者から仕入れ、枝を曲げるなど形を整える作業を施して出荷する「流通業」である。盆栽だけでなく鉢物なども同時に扱っていることが多い。

3つめは、畑を所有し、播種・さし木・接ぎ木などの手法を用いて盆栽苗を生産する「農業」である。この3つの職種は完全分業というわけではなく、ひとつの盆栽園が複数の職種を行っていることも珍しくない。本マニュアルは「農業」の一部門である盆栽苗生産のために作成した。

日本産盆栽は、国内より国外の需要が大きい傾向が続いていて、しかも、ひと鉢数千円の価格帯の盆栽が輸出の中心であるとデータから推測されている。需要に合わせるためには、盆栽苗生産のさらなる効率化を図る必要がある。

本マニュアルは、花苗の育苗などで用いられている温床マットを、シンパクさし木には不適な時期の10月に使用した結果をまとめたものである。生育期間短縮・効率化の一助となれば幸いである。

目次

- | | | |
|---|-------------|-----------|
| 1 | 材料および方法 | 1 ~ 3 ページ |
| 2 | さし木方法 (図解) | 4 ~ 6 ページ |
| 3 | ハウスについて | 7 ページ |
| 4 | 気温・温度変化について | 8 ページ |
| 5 | まとめ | 9 ページ |

1 材料および方法

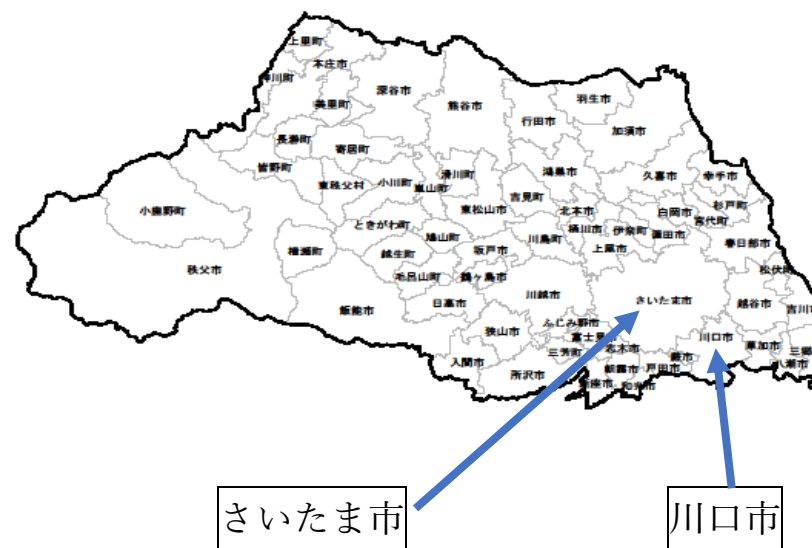
(1) 親木

川口市内の盆栽生産者の畑（さいたま市見沼区）で管理されている親木からさし穂を採取した。

- 品種・系統名 糸魚川シンパク絹糸性
- 年生 30年以上
- 生育場所 盆栽園圃場（さいたま市見沼区）
- さし穂採取時期 平成29年10月6日



親木



(2) さし穂

収穫した枝を持ち帰りさし穂の調整を行った。盆栽用の品種・系統は枝の伸長が緩慢なことが多く、今回も、当年に伸びた部分の長さが予定より短いさし穂が多かったため、さし穂全体の長さを15～25 cmの範囲とした。予定どおりのさし穂を確保するには、前年度から、翌年度どのくらいさし木を行うかをイメージして親木を管理することも重要である。

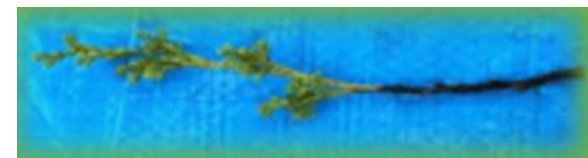
- 採取部位 枝の先端または第二分枝
- 長さ 当年枝の長さ3～10cm、前年枝の長さ5～20cm、さし穂全体の長さが15～25cmとなるよう調整
- 調整方法 返し切り（第二刃で楔形に切断）、葉の切断は行わない（樹形の乱れを防ぐため）
- 発根促進剤 使用せず（※発根促進剤の効果を否定するものではない）
- さし穂調整に要した時間 約10時間／350本
- さし穂調整後吸水時間 6～48時間（さし穂調整が数日にわたったため吸水時間のばらつきが発生した。）
- さし木場所 盆栽園敷地内ハウス（川口市安行藤八）
- 調整・さし木時期 平成29年10月7～9日



採取部位



さし穂の例（当年枝短め）



さし穂の例（当年枝長め）

(3) さし床

今回は鹿沼土を使用したけど、赤玉土でも差し支えない。粒が壊れにくい材質のものを選ぶ。

- 用土 鹿沼土中粒
- さし箱 39.5×29.5×13.0cm プラスチック籠
- 前処理 さし箱に用土を充填し、上部からやや強めにはす口でかん水し微塵を流出させてからしばらく置いた箱にさし木した。



用土



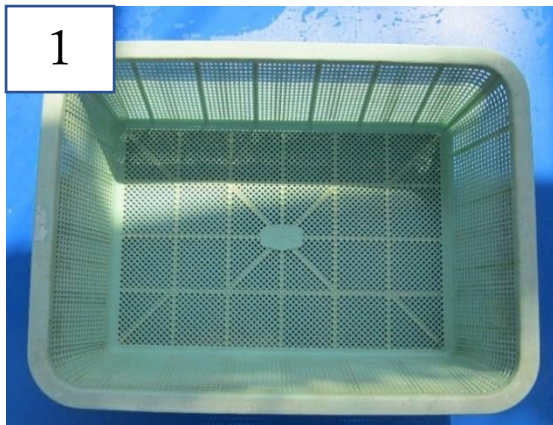
プラスチック籠

(4) 環境

ハウス詳細・温度変化については別ページ参照

- さし床設置場所 ビニールハウス内に設置した棚
- かん水方法 天井ミスト 4回/日 3～5分間/1回
- 冬期の保温方法 温床マット

2 さし木方法（図解）



さし床を用意。今回は、旧埼玉県花植木センターで使用実績のあるかごを使用した。



かごに土を充填。今回は鹿沼土を使用。充填後は板切れなどで表面を平らにならしておく。



さし床全体に上部からまんべんなく水をかけ、微塵が底から流出し終わるまで続ける。事前に土を篩（ふるい）にかけて微塵抜きをしてもよい。自然に水が切れてからさし木を行う。作業量が多い場合は、前日夕方までにさし床及びさし穂を用意し、翌朝からさし始めるとスムーズである。



さし穂を用意する。さし穂の長さ及び処理方法などは前の表を参照。写真は返し切りの1刃目を入れた様子。



2刃目を入れた様子。切り口は乾燥させないように注意する。調整したさし穂は、乾燥や日光による蒸れを避けて吸水させる。作業量が多い場合は、前日までにさし穂の調整を行っておき、夜間を吸水時間として、翌朝からさし始めるとよい。



さし床には釘などを用いてあらかじめさし場所ガイドを付けておくとよい。



1本さした様子。さした後はさし穂の周りの土を指で軽く押して安定させる。



ひと箱終了した様子。36.0×26.5 cm（内径）の面積に5行6列計30本さし木を行った。

3 ハウスについて

川口市内の盆栽生産者宅の敷地にハウスを2棟設置し、内部の温床マット上でさし床を管理した。



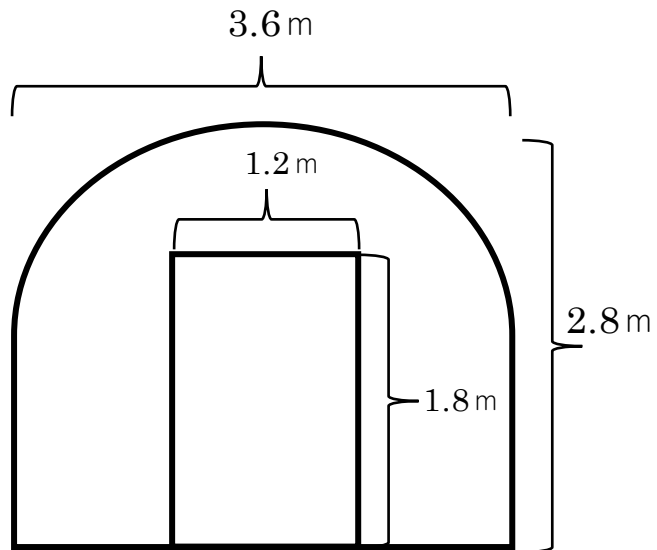
鉄骨が立った状態のハウス2棟



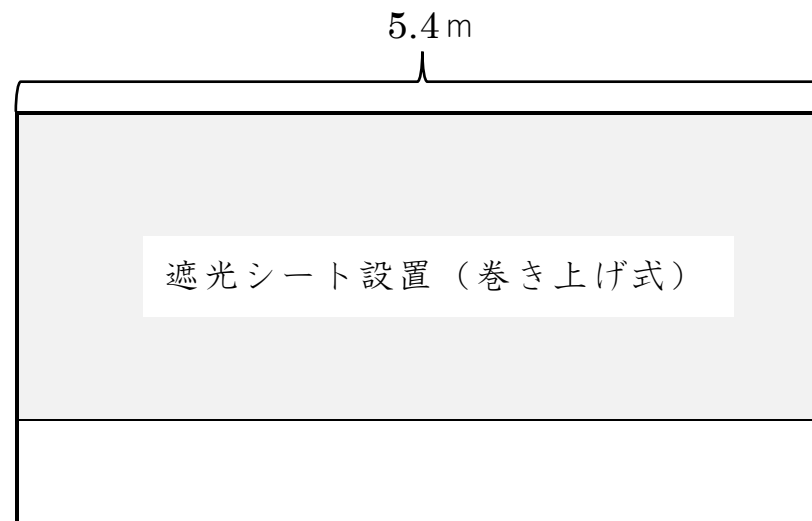
ビニールを張った直後



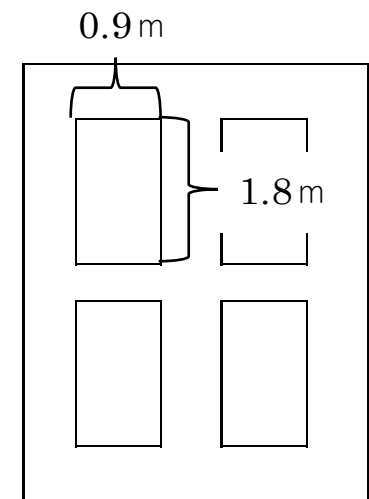
完成後の内部



立面図



側面図

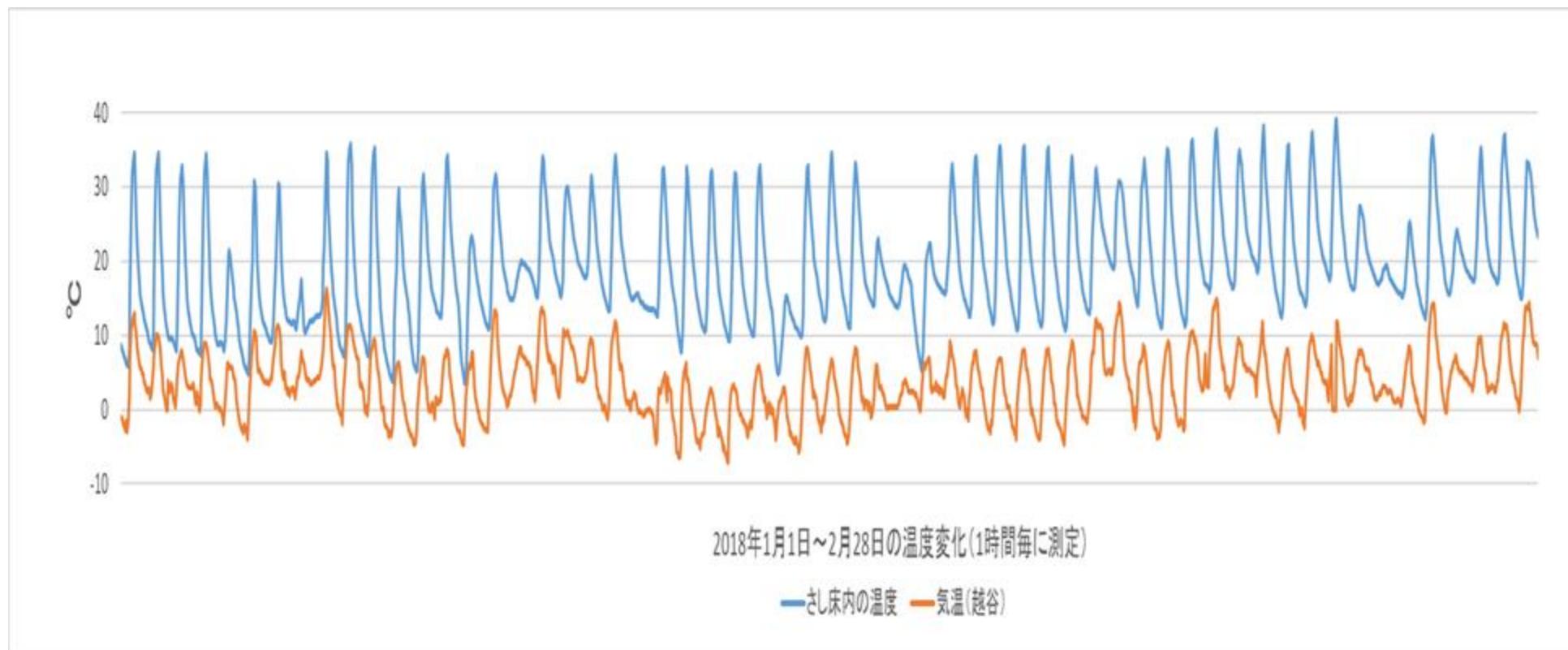


平面図
(ベンチ4/棟)

4 気温・温度変化について

さし木期間のうち加温期間は12～3月、うち1～2月の温度変化を下記に記した。

- 1 「さし床内の温度」は、無加温ハウス内に設置したさし床（温床マット使用）の土の中にセンサーを差し込んで測定した
- 2 「気温(越谷)」は越谷気象観測所（ハウス設置場所から直線5 km以内の距離）のデータを使用した



さし床内の温度の変化は外気温とほぼ連動しているが、最高・最低温度とも外気温より高く推移しているため、発根に適した温度に保たれると考えられる。

5 その他

下記は発根したさし穂の一例（平成29年10月9日さし木→平成30年3月12日調査）



今回の実験では、温床マット無より有の方が発根率は高かったが、春先や梅雨といったシンパクさし木の適期（ほぼ100%）には及ばなかった。さし穂の品質を上げるなど、他の要因についても検討する必要があると考えられる。

参考図書

- ①盆栽大事典（普及版） 株同朋舎出版 1989年4月10日発行
- ②さし木のすべて 町田英夫 誠文堂新光社 昭和57年8月10日第6刷発行
- ③盆栽のすべて 浅枝恵 農業図書 昭和47年9月1日3版発行

実施機関：花と緑の振興センター

協力機関：埼玉県輸出盆栽研究会

本マニュアルは、農林水産省「国産花きイノベーション推進事業」で実施した実証事業により作成しています。

発行者

さいたまの花普及促進協議会

〒330-0063

埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-12-9

電話・ファクシミリ：048-711-7166